

ダイアリーシアター
～千秋公園編～

「二の丸にて」

作：齋藤一洋、吉成佳子、尾留川直美

「女子旅」

作：信太亜華音、中川 舞、松野輝大、三富章恵

「御隅櫓にて」

作：秋山卓登、石井千夕、菅原代志子、高橋秀輝

「はじめての千秋公園」

作：棚木陽菜、根田紗那、佐々木千来

「二の丸にて」

登場人物

サイトー (K)

ヨシナリ (Y)

ビルカワ (B)

ダイアリーシアター千秋公園編に参加して初めて出会った三人。
ナビゲーターの自称「黒子役」という男に促されて歩き始める。
女性二人は知り合い同士、サイトーは暗い気持ちで話し始める。

K「(歩きながら) あ、どうもはじめまして」

Y,B「はじめましてー」

K「あの一演劇とかよくわからないけど、僕はあの、千秋公園好きだから参加してみたんです。よろしくお願いします」

Y,B「よろしくお願いしますー」

Y「じゃあ、千秋公園詳しいですか？」

K「まあ…詳しいと言えば…」

Y「じゃあ、公園の歴史、教えてくださいよ」

K「うーん、そうですねー長岡安平って造園家が設計したんです、この公園。で、東京日比野公園とか、秋田だと旧仙北町の池田氏庭園もこの人の設計なんです」

Y,B「へー」

K「池田氏庭園って雪見燈籠のある大きな庭園です」

Y,B「はいはいはい」

K「で、胡月池っていう奥の池にも雪見燈籠あるんですよ」

Y「へー」

K「あ、でも、こんな歴史の話だけだと面白くないから、この前新聞に載ったハートの刈り込みがあるの知ってます？」

B「あー新聞見ましたー」

Y「見た見た見た」

B「どこにあるか知らないのー」

K「あ、じゃあ、行ってみましょっか？」

B「はい」

一同、ハートの刈り込みの前まで移動して、

K「(指をさして) あ、これこれ」
B「あ、本当だー」
Y「これ、誰が作ったんですか？」
K「あ、えっとね、市の公園課だと思いますよ」
B「へー」
Y「じゃあ、色んな形に勝手にできちゃいますね(笑)、(Bに) 秋田犬とかさ」
B「おーいいと思う」
K「いやーここ昔胡月池に動物園あったから動物…んーけど勝手にはどうかなあー」
B「いやいやいやいや、ゲリラ的にね」
K「うーん、夜にゲリラ的にやると面白いかも(苦笑)」
B「観光候補にね」
Y「なるよね」
B「なるよね、で、勝手に伝説つくればいいじゃん(笑)」
Y「あーいいかも」
B「ハートで」
Y「ハートで(笑)」
K「ハートで? うーん(昔を思い出しつつ遠い目で) …そう言えば、そうだ、ハートで思い出したけど、俺、高校の時、北高に好きな娘がいて…」
Y,B「おー」
K「グループで、あの一千秋公園に来て、手つなぎ鬼やったんですよ」
B「なんすかその素敵エピソード(笑)」
K「…手つなぎたくて」
Y「いいなー」
B「手つなぎ鬼で?」
K「うん」
Y「その恋は実ったんですか?」
K「…うーん、あの一俺の好きな彼女はね、俺の友達のこと好きだったんだなー」
B「マジっすか?」
K「うん」
Y「あーだめだったんだ…」
K「うん」
B「いや、いい! そのエピソード。それで、そのハートを前に手つなぎ鬼の聖地? にするっちゅうのはどうすか?!」
Y「いいんじゃない?(笑)」
K「まあ、少子高齢化だからね、まあ、高校生とか学生の出会いの場、になるのかな…でもコロナだから手つなげないですよ」

B「つなげないですね、消毒しながらやる？」

BとY、消毒をしつつ手つなぎ鬼をやる身振り。

B「どうすか、これ？」

K「あれ？これは…」

全員「鬼に消毒、ごっこ？（鬼に金棒ではない…）」

Y「何それ？（笑）」

B「鬼に消毒ごっこって、なんだよ、それ（笑）」

暗転。

一同、退出。

Y「あ、ところでさ、私、子どもの頃、奥の池に落ちてさあ（笑）」

K「そうなんだ」

B「へー」

一同、歩きながら会話は続く。

「胡月池にて」に続く。

「女子旅」

登場人物

県外女 1、県外女 2、県外女 3

県内女 1

胡月池前。県外女 1,2,3 が途方に暮れている。

県外女 1「待ち合わせの池って言ってたけど、ここかな」

県外女 2「あー…県外の人に厳しいね…」

県外女 3「あいつならしかたないか…」

県内女 1 登場。

県内女 1「はーい、みんなーお・ま・た・せ。あれー？辿り着くと思わなかったなー（笑）。

SOS 来ると思った（笑）」

県外女 3「もうちょい分かりやすいところにするでしょ」

県外女 1「そういや、ここの池の名前なんて言うの？」

県内女 1「よくぞ聞いてくれました。（演技っぽく）あれに見えるは由緒正しき胡月池。泥の中より咲きたりますは私の愛した蓮の花…」

県外女 2「(遮って) あ、あの、えっと普通に説明をお願いします」

県外女 1「そういえば秋田って何があるの？なまはげ？」

県内女 1「そうだねえ。秋田ってなまはげに限らず国の無形文化財が沢山あるんだよねー」

県外女 1「なんでそんな残ってるの？」

県内女 1「昔秋田は全体的にすごい豊かな土地だったんだよ。他の地域は夜逃げとかそういった人たちがいっぱいいて、たくさん村がなくなっていったんだけど、秋田は逆に他の地域からたくさん夜逃げの人たちが来るくらい豊かでき、で、村が残っているってことは、たくさんのお祭りも残りやすくて、それで、たくさん秋田には残ってるんですねー…」

県外女 1,2,3「へえー」

一同、ぶらぶら歩く。

県内女 1「それにねえ、やませって聞いたことない？」

県外女 2「やませってなんですか？」

県内女 1「えっと、農業をやっているとね、あの、太平洋側の地域では冷たい風が吹いて、それが米を駄目にしちゃう訳、で、米がとれない。でもね、秋田と岩手の間には奥羽山脈って

いうのがあって、それにばーんと当たると次第に乾いた風になっていく、で、その乾いた風っていうのはお米にすごく良くて、それで秋田はすごく豊かだったの」

県外女 1,2,3 「はあーへえー」

県内女 1 「岩手の人に見られたら殺されるけど」

県外女 2 「…あ、何か聞こえない？」

県外女 1 「スピーカーからかなー」

一同、音の鳴る方へ向かう。

県外女 3 「…あ、これ、弾いているね」

県内女 1 「お母さんかな、厳しそー」

県外女 2 「コンクール近いのかな」

県外女 3 「うん」

県内女 1 「じゃあ、次、彌高神社にいきましょうよ」

一同、彌高神社へ。

県外女 1 「あ、七五三やってる」

県内女 1 「あーもうそんな時期かー」

県外女 2 「私、あんまり、千歳飴、好きじゃないっていうか…苦手なんだよねー、ミルクーみたいな味がちょっと甘いっていうか…」

県外女 3 「あー、私…はね、あの、昔、歯もってかれちゃったなあ…」

県内女 1 「あーはいはいはいはい、次行くよー。次は…御隅櫓かな」

了

「御隅櫓にて」

登場人物

男1、男2

女1、女2

御隅櫓に到着した一同、エレベーターに乗り込む。

女1「(エレベーターのボタンを見て) なんで3階が無いんだろ…」

女2「あー、多分…倉庫だからじゃないですかね」

エレベーターの扉が開く。一同、展望台に出る。

外の景色を眺めながら、

女1「(指をさして) あそこが男鹿半島？」

男1「そうですね。やっぱり海が見えると良いですよー」

男2「いやあ、意外に良い景色ですねー、いやあ、なんで今まで来なかったんですかねー？」

女2「いや、まあー、わざわざ千秋公園なんて来ないですからね」

一同、景色を見ている。

女1「…1周してみます？」

一同、展望台を1周する。

最初の場所に戻ってきて、

男2「やっぱり…あれですね、結局一番最初のところが一番良いですねー」

女2「やっぱりちょっとこう、落ち着きますよね」

女1「うんうん」

男1「いやあ、でもこうやって見ると、風車すごい増えましたよねー」

女1「でも、あの風車って絵にもなるけど…鉄の塊で無機質な感じ。…なーんか違和感あるなー」

男1「うーん」

一同、感傷にふける。

「はじめての千秋公園」

登場人物

ひな

さな

ちな

一同、階段を登りながら、

さな「さっきさ、ひなちゃんに来る前に、池に鴨がいたんだよねー」

ちな「うんうん、いたね」

ひな「あそこよく鴨流されてるもんね」

ちな「えっそうなの!？」

ひな「うん」

さな「それさ、ちなちゃんがラムネしか持ってないって言って、あげようとしてたんだよね」

ちな「食べそうじゃない？」

ひな「えっ!? 死んじゃうかも」

さな「かもだけに? (笑)」

一同、佐竹義堯^{よしたか}公、銅像前に着いて、

ひな「へえー (指をさして) 佐竹義堯だって」

さな「知らない人だ…」

ちな「ゴツゴツしててイケメンだし、タイプ♡」

ひな「えっ? ちなって色白細身モヤシ系男子が好みなんじゃないっけ？」

ちな「それはそれ、これはこれ」

さな「ねえ見て、おじゃるまるのしゃく持ってるよー」

ひな「本当だ! かわいい、写真とっところ (写真を撮る)」

ちな「あっあそこに鳥居あるよ」

さな「行きたーい」

一同、神社に向かい走る。

ちな「鳥居って真ん中通っちゃだめらしいよー」

ひな「へーじゃあ端っこ通ればいいんじゃない？」
さな「そうだね。あっ、狐いっぱいいるよ」
ちな「本当だ、写真撮ってもいいかな？」
ひな「あっ、(指をさして) その狐なんかくわえてるー」
さな「…五百グラムダンベルじゃなーい？」
ちな「(かぶせて) えっ、私もそれ持ってるんだけど (異常に食いつく)」
ひな「えっ?! ちなって鍛えてたの？」
ちな「そーだよー。彼氏欲しくってさ、美ボディー目指して頑張ってるんだよねー」
さな「明後日の体育祭期待してるよー」
ちな「まかせてー」
ひな「あっ、(指をさして) あっちにおみくじあるじゃん。恋みくじもあるよ、ちな引きなよ」
ちな「わかった！」

ちな、恋みくじを引く。

ちな「(おみくじを引く) はあっ!!」
さな「何吉? ファミチキ?」
ちな「(おみくじを見て) 小吉だった…」
さな、ひな「あー」

おみくじをみんなで見ながら、

ひな「同い年でB型って、うちの学校男子五人しかいないし、いなそうだよねー」
さな「うん… (おみくじを見て) あっ、二年後に待ち人来るって。…二年後だったら、私たち大学生かー」
ひな「いい連絡待ってるよ」
ちな「大学行ってばらばらなっても、こーやっらずっと仲良しでいられるといいね」
さな「うん、そうだね」
ひな「あっ、もう時間だって」
ちな「戻ろっか」

ダイアリーシアター～千秋公園編～

日時：2020年9月26日（土）

会場：秋田市千秋公園

発表会場：鯉茶屋

ナビゲーター：島 崇、加賀屋淳、児玉絵梨奈

主催：秋田市

協力：鯉茶屋

発案者：島 崇

企画支援：NPO 法人アーツセンターあきた